

『ピアノ・ミュージックフェスティバル・セレクション8』 演奏のポイント

1. ゴジラ メインテーマ／伊福部 昭

SMFあり ★☆☆☆☆

2024年で70周年を迎える特撮怪獣映画「ゴジラ」シリーズのメインテーマです。アクセントを明確に、リズムの大きな流れを感じて弾きましょう。引き締まったタッチで、テンポをしっかりとキープする事が大切です。特徴的な変拍子は、数えるよりも「ゴジラ、ゴジラ、ゴジラとメカゴジラ～」などメロディーに言葉を当てはめてみると覚えやすく、楽しみながら練習できるでしょう。[B],[C]の右手の4分音符については、音価は自由です。ただし全体を統一した方が自然でしょう。原曲を参考に工夫してみてください。左手の低い音ははじめて弾く音域かもしれませんが、この低音が巨大なゴジラを表現しています。ポジションを覚えて弾きましょう。[D]は曲想が変化します。強弱を意識して、映画のワンシーンのようなインパクトのある演奏を楽しんでください。

2. キミのぼけっと／葉加瀬 太郎

SMFあり ★☆☆☆☆

藤子・F・不二雄の生誕90周年を記念して公開された「映画『ドラえもん』のび太の地球交響楽（シンフォニー）』もしも地球から音楽が消えてしまったら…!？」の公開を記念して、子どもたちの「楽器を弾いてみたい!もっとうまくなりたい!」といった気持ちを応援するプロジェクトのために書き上げられた記念楽曲です。[A]イントロ部分は左手も右手のメロディーと揃えながらいねいに弾きましょう。できれば一音一音をはっきりノンレガート気味に弾いてください。[B]メロディー部分はなめらかに流れを意識してリズムに乗って弾いてください。[C]は盛り上がる気持ちで右手のタイの音符の長さに気をつけながら弾くとよいでしょう。左手が重音になるところは、しっかり粒をそろえてください。[D]2小節前から右手が重音になるところは音がずれないように注意して弾きましょう。

3. シシリエンヌ／M. T. パラディス

SMFあり ★☆☆☆☆

マリア・テレジア・フォン・パラディス（1759～1824）はモーツァルトとも親交があったとされる盲目のピアニスト・作曲家で、この「シシリエンヌ」はおそらくその最も知られた室内楽曲ですが、後世の偽作との説もあります。素朴なシチリアーノの形式をとる一方、いくぶんロマン的なメロディーや和声に特徴があります。演奏においてはまず伴奏の和音を安定した均一な長さで強さで弾くことで、古典的な舞曲のリズムをしっかりと刻むこと、そのうえでメロディーの表情を自然に歌い上げることがポイントになるでしょう。後半部分で、トリルの終わりの装飾音符（または16分音符）の臨時記号や譜割りが、前後の関係により微妙に異なることに気をつけてください。

4. ウィッシュ ～この願い～／アリアナ・デボース

SMFあり ★☆☆☆☆

ディズニー映画「ウィッシュ」の中で心からの「強い願い」が星に届き、奇跡を起こすシーンで流れる楽曲です。テンポは一定ですが、心が逸ったり迷ったりとても感情的に歌われていく曲で、全体には3連符を中心としたノリで進行します。[B],[G]などの伸びやかな間奏や、[C]の細かく表現されたメロディーそれぞれのフレーズを丁寧に歌いましょう。雰囲気が変わる[D]の部分では気持ちを新たに決然と、マーチのように颯爽と弾いてください。[E]以降は8分音符と合わさってリズムが複雑に絡んできます。曲の盛り上がる部分ですから、正確なテンポを感じながらも気持ちを込めて歌い上げましょう。全体的にゆったりと大きな流れを感じながらも力強い意志を持つイメージで演奏してください。

5. ケセラセラ／Mrs. GREEN APPLE

SMFあり ★☆☆☆☆

場面の变化、転調、さらに拍子の変化と盛りだくさんの曲ですが、全体としてしっかりしたリズムとタッチで明確に演奏することが肝心です。伴奏だけでなく、メロディーによって曲の持つ躍動感を出したい曲なので、滑らかさ、均一さに傾きすぎずにアーティキュレーションやアクセントをつけてフレーズの中にもメリハリを表現することで、曲全体のリズム感が生き生きしたものになるでしょう。さらに[E]や[H]のようにやや落ち着いた箇所ではレガート感を強調することで、場面の対比も出せるとよいでしょう。曲の随所においてキメやシンコペーション等のリズムの細かな仕掛けが多いので、よく把握して確実に演奏してください。

6. リバー・フローズ・イン・ユー／イルマ

★★★★☆

この曲は4つのコード進行で成り立っている曲でとてもシンプルな構成になっています。だからこそ曲が平坦にならないよう、抑揚をつけ1つ1つの音を大切に演奏することを心がけましょう。16分音符の刻みの中に主となるメロディーが入っているため16分音符の刻み全部を聞かせようとはせず伴奏とメロディーの役割をしっかりと把握した上で演奏しましょう。基本的に4分音符=66位を目安にしていますが、曲の中でテンポの揺れが心地よい程度にあった方がより良い演奏になると思います。

7. il porco rosso／久石 譲

SMFあり ★★★★★

ジブリ映画「紅の豚」のなかで使われた久石 譲さんの「帰らざる日々」です。武道館でのライブ・バージョンのイメージでのアレンジです。[A]のrubato部分はSMFミュージックデータを自然に感じ、歌えるといいでしょう。[B]の2拍前からテンポが変わりSwingになりますので、ドラムからのカウントをしっかりと聞き、[B]の入りの部分はしっかりと合わせましょう。時折出てくる左手での合いの手のフレーズは右手の主旋律とのバランスに気を配って演奏します。[H]の1小節前でドラムはお休みになりますので、[H]はたっぴりと自由に歌ってください。全体的に穏やかな雰囲気、綺麗な音で弾けるといいでしょう。

8. しわあわせ／Vaundy

SMFあり ★★★★★

ドラマチックな構成、静と動の対比が大きな要素となるバラード曲です。特にサビやCodaではエモーショナルさ、パワフルさを押し出したいイメージですが、ピアノ曲としてはあまり力任せになりすぎずに、メロディーのつながりのなめらかさ、パートのバランスを保つことを優先して、ある程度の余裕や「優しさ」を持って演奏することも大切です。[C]および[G]の左手のアルペジオのパターンには大きく3種類の形があるので、それぞれよく把握して、かつその動きの意味を感じ取って弾いてみましょう。最後の音まで緊張感をなくさないように、ロングトーンをたっぴり歌い上げてください。

9. Everything／H ZETTRIO

SMFあり ★★★★★

H ZETTRIOの超絶技巧的パフォーマンスが印象的な楽曲です。転調を繰り返しますので、#6個の調では譜読みは慎重に行いましょう。[G],[H],[J]はアドリブ(ソロ)になります。[G]はテーマ[B]と同じですが、コード(和音)は2つだけになります。[G],[H],[J]の3か所はすべてFreelyなので、自由にアレンジを楽しんでください。全体的に歯切れよく、データのベース音をよく聞き、ピアノ、ベース、ドラムの3人でセッションしているような自由な雰囲気を楽しみながら、勢いのある演奏になるといいですね。You Tubeで原曲の演奏を聴くことができるので、ぜひライブを楽しんでください。

10. ワルソー・コンチェルト／リチャード・アディンセル

★★★★★

この曲はもともとピアノ協奏曲で、ピアノのみでも楽しめるようアレンジしました。

とても表情豊かな楽曲で、聞かせどころがたくさんあります。テクニックが必要とされる部分やリハーサル番号[F],[G]の部分は譜面を縦で見ずに横の流れを大切にどういった旋律がどのような流れで奏でられているのか譜面をしっかりと理解した上で演奏してみてください。リハーサル番号[J]からは特に華やかにラストまで演奏しましょう。威厳を持って演奏するところ、繊細に表情豊かに演奏するところ、華やかに演奏するところなど、さまざまな表情があるこの楽曲を楽しんで演奏してください。